マラウイ通信

渡邊拓人
行政サービス
ドーワ県立病院

【リロングウェ】首都リロングウェ。人口約１００万人超を有するマラウイ第二の都市。暑い時期の平均気温であっても３０度程度と、熊本の夏より遥かに過ごしやすく感じます。首都には様々な商業施設や各国の大使館等の外国からの建物があるので、皆さんが想像しているアフリカのイメージとは少し違うかもしれませんが、一歩郊外に目を向けると殺伐とした赤土の大地が何処までも続きます。

私の見解も含むかもしれませんが、首都に住んでいる人は裕福な人が多く、身なりも綺麗にされている印象です。しかしそんな首都であってもマラウイでは貧富の差を驚くほどに感じる場面があり度々深く考えさせられます。例えばマラウイで決められている最低労働賃金は一日あたり約２５０円です。それに合わせて国全体の物価が低いのであれば納得なのですが、そうではありません。庶民のレストランのランチ１５０円、ビール１本（１リットル）９０円、ガソリン１リットル２０円。ピザ１枚６００円です。一般の方にはなかなか手が出せません。そんな中、首都などで働く事が出来ている方達の中には頻繁にこのような食事や生活をしている方が多く暮らしています。（地方には滅多に居ません）日本で私たちが普段生活している生活水準が、マラウイでは富裕層に値しているといった状態です。また、私が普段首都で食べるシマのレストランで食事をしていると子供達が目線を向けてきます。余りものを欲しがっているのです。綺麗な街並みの首都であってもこうした貧しい子供達が多く存在する国。改めて自分達は先進国に生まれ育ち、恵まれた環境の中で生きてきた事を実感しました。

【救急車】

悪路の多いこの国での救急車はランクルです。荷台が貨物使用になっており、そこに患者を乗せます。通常乗組員は運転手一人で、荷台にはベットはありません。しかもアフリカンミュージックが大音量で流れています。患者への配慮は、ほとんど感じられません。

マラウイでは電気のほとんどが水力発電ですので雨期に入ると電気の調子が幾分良くなります。そのお陰で最近は仕事を終え帰宅した後にパソコンを使って大好きな映画を見る事が出来て、とても快適です。先輩隊員から受け継いだ膨大なデータがあるのでしばらくは一人の時間を過ごせそうです。ただ洋画の多くが日本語字幕じゃありません。そうです、協力隊員のほとんどが英語レベル高めなんです、、、なんとか自分も周囲のレベルに早く追いつきたいのですが、、、

【交通事情】

マラウイ全土に多くの日本車が走っています。そのほとんどが日本からの中古車ですので、表記やナビの音声は日本語です。(もちろんナビは使えません)一般的にミニバス（ハイエースなど）を利用して移動します。時刻表などは無く、バスが満員になると出発します。(最大４時間待った事があります)満員と言っても日本の店員オーバーレベルが定員ですので、時には1台(4列シートの車など）に17人以上程乗る事や、５乗りの普通乗用車には８人乗る事もあります。運転席に2人、助手席に２人、後部座席に４人といった感じで重なり合って乗車します。慣れるまでは大変でしたが、慣れてくると平気なものです。ただ整備不良車での交通事故は頻繁に発生しており利用する側にも十分な注意が必要です。電車等の交通手段は使えませんので、遠い所への移動もバス移動が基本です。隊員によっては、首都での集まりの為に10時間以上かけて来る隊員も数名おります。